



開倫塾ニュース送付の御案内

ごあいさつ

開倫塾
塾長 林 明夫

開倫塾では、毎月 1 回、塾生、保護者、地域社会、ビジネスパートナー、全教職員の皆様に、開倫塾ニュースを 7000 部印刷し、発行させて頂いております。

この開倫塾ニュースの送付の御案内を兼ねた塾長通信は、塾生の皆様はじめ読者の皆様に、開倫塾の代表者として巻頭言のほかにお伝えしたいことを掲載させて頂いております。

23 年目に入った CRT 栃木放送「開倫塾の時間」の放送内容の速記録をはじめ、新聞社や雑誌社から依頼されて書かせて頂いた原稿などが主であります。開倫塾は栃木県に本部があるため、栃木の地名がついた原稿が多いですが、内容はどの都道府県にもあてはまるものです。

内容は学習方法に限らず多岐にわたることもありますが、皆様がものごとを考えるときにこのような考え方もあるのかと、参考にして頂ければ幸いです。

毎月長い内容になって恐縮ですが、皆様の御参考になればとの思いでお送り申し上げるもので、もしよろしかったら最後のページまで目を通して頂ければ幸いです。

なお、開倫塾ニュースの数年分のバックナンバーや、塾長通信はじめ私がここ数年間執筆させて頂いたものの多くは、開倫塾のホームページ(www.kairin.co.jp)で御覧頂けます。是非、お気に入りに入れて頂き、一週間に一度ぐらいは御覧頂ければ幸いです。(林明夫のコーナーは毎日更新しています)

開倫塾の教育内容や私が書かせて頂いたものについて御意見、御感想、コメント等がありましたら、是非御遠慮なく、お手数でも各校舎や本部までお知らせ賜れば幸いです。

どうかよろしくお願い申し上げます。

感謝

読書で思慮深さと自省心を身につけよう

「書き抜き読書ノート」の勧め

開倫塾

塾長 林 明夫

Q 本を読むことは学力を身につけることに役立つのですか。

A (林明夫。以下省略)役に立ちます。大いに役に立ちます。学力が高い人は本をじっくりよく読みます。学力の低迷している人はあまり本を読みません。

本をじっくり読んで、深くものごとを考える「思慮深さ」や自分自身を振り返る「自省心」が身につけている人は学力が高い。

このように私には思えてなりません。

Q なぜ本をじっくり読むとものごとを深く考えるようになり、「思慮深さ」や「自省心」が身につくのですか。

A 小説やエッセイ、論説などいろいろな分野の本がありますが、それらはすべて文字で書かれています。

本を読むというのは、そこに書かれている文字を一語一語自分の頭でこれはどのようなことなのかなと読み解く、つまり、うんなるほどと「理解」することにほかなりません。そこに書いてあることがうんなるほどと「理解」されてはじめて、次の文章にすすむことができます。一つ一つの「言葉」の意味をうんなるほどと「理解」して読書は成り立つのです。

「言葉」の力が身につくにはじめて本を読むことができます。本を読むことができるというのは、一つ一つの語句の意味がよくわかり、また、一つ一つの文章の意味がよくわかり、作者の言いたいことがよくわかるという「言葉」の力が皆さんに備わっているからです。

「言葉の力」があまり身につけていない人は、文章を読むこと、本を読むことはとても難しいといえます。

Q 簡単そうに見える英語の本がスラスラ読めないのは、「言葉の力」が不足しているからなのでしょう。

A 言いにくいですが、その通りだと思います。一つ一つの語句の意味がよくわかり、一つ一つの文章の意味がわかってはじめて、その次の文章にすすむ、本を一冊読み終えることができるのです。英語の本がどんどん読めない、最後まで読み通すことができないというのは、一つ一つの語句の意味があまりよくわからず、一つ一つの文の意味もよくわからない、つまり、英語の「言葉の力」が足りないからだとは私は考えます。本を読むこと、読書で大切なのは、日本語も英語も「言葉の力」です。

このような「言葉の力」が少しずつでも備わってくれば、日本語でも英語や他の言語でも本はスラスラ読めるようになります。

本に書かれている一語一語を大切に、一ページ一ページじっくり深く読むことは、「言葉の力」を身につけることにとても役立ちます。

Q どうしたら読書をすすめるだけの「言葉の力」を身につけることができますか。

A あまり無理をせず、なるべく自分の学年のレベル、学力のレベルに合った本をゆっくり、たくさん読むこと。本を読むのが苦手な人は、パッと開いてスラスラ読める本から読書をスタートしましょう。スラスラ読める本をじっくり、たくさん、量を読むことで「言葉の力」が確実に身につきます。

難しめの本が読みたくなったら、勇気を出してちょっと難しめの本や新しい分野の本にも挑戦しましょうね。本を読んでいてどうしてもわからない語句に出会ったら、「辞書」をひき意味を確かめることもよい勉強です。

このようにして、「言葉の力」を身につけて本がスラスラ読めると、学校のいろいろな科目の教科書に書いてあることもよくわかるし、学校の先生の授業もよくわかる、また、試験の問題も文字で書かれていますのでどのような問題なのかを読み取ることができます。

じっくり深く読む読書で「言葉の力」を身につけた人は学力が高く、学校の成績もよく、希望校の入試にも合格できると私は考えます。

Q 読書により「思慮深さ」や自らを振り返る力「自省心」が身につくとはどういうことですか。

A じっくり型の読書により「言葉の力」が身につけてきますと、言葉の「定義」つまり意味内容をよく考えるようになりますので、自分は今何をやっているのか、その「意味」がわかってきます。自分を振り返る「言葉」をたくさんもつようになるからです。

「言葉の力」があまりない人は、世の中には様々な考え方や言葉がある、つまり、言葉としてあらわされる様々な考え方や生き方があるということがあまり思い浮かびません。自分や世の中のことを深く考える「思慮深さ」や、自分を振り返る「自省心」は、じっくり型の読書によって積み重ねられる「言葉の力」によるものと私は考えます。

Q 最後に一言どうぞ。

A 本を読んでいてこれぞと思う「言葉」や「考え方」、「文章」に出会ったら、お気に入りのノートを一冊用意なさり「書き抜き読書ノート」と名付け、そのノートにたとえ一言でも、また、一行でもよいですから書き抜くことをお勧めいたします。

「書き抜き読書ノート」を一生の宝物にして下さいね。何回、何十回、何百回、何千回も繰り返して読み直しましょう。自分の気に入ったものですから自分の血や肉、つまり、人格の一部になります。

私の書き抜き読書ノートは、開倫塾のホームページ(www.kairin.co.jp)の中にある「林明夫」のコーナーにあります。私は、毎日一冊ずつ本や雑誌(新聞も)を読み、書き抜くことに挑戦しています。参考までに、是非毎日御覧下さい。

ではがんばって下さい。

- 2009年9月16日記 -

「英語教科書丸暗記ノート」作りの実行を

- 英語の定期試験で 100 点を取り、模擬試験で 60 以上、70 以上の偏差値を取るには -

開倫塾

塾長 林 明夫

Q：英語の定期試験で 100 点を取るにはどうしたらよいですか。英語の模擬試験で 60 以上、できれば 70 以上の偏差値を取るにはどうしたらよいですか。それには、英語の教科書を丸暗記することが最も効果的と聞いていますが本当ですか。

A：(林明夫。以下省略)

(1) 本当です。学校の教科書をスミからスミまで丸暗記すれば、学校の定期試験で 100 点を取ることができます。また、模擬試験で 60 以上の偏差値を取ることができます。これに加えて開倫塾のテキストを丸暗記すれば、70 以上の偏差値を取ることができます。

(2) 学校の定期試験で 100 点を取りたいければ、また、模擬試験で 60 以上の偏差値を取りたいければ、学校の教科書を丸暗記してしまいましょう。

また、模擬試験で 70 以上の偏差値を取りたいければ、開倫塾のテキストを丸暗記してしまいましょう。

Q：では、どのように丸暗記したらよいのですか。具体的に教えて下さい。

Lesson1 1	1 課、第 1 セクション
(1) I am Akio Hayashi.	(1) 私は林明夫です。
(2) I like studying English.	(2) 私は英語を勉強することが好きです。
(3) Because I want to go to US in the future.	(3) なぜなら私は将来アメリカに行きたいからです。
(4) Do you like studying English?	(4) あなたは英語を勉強することが好きですか。

A：「教科書丸暗記ノート」を作るためにノートを一冊用意して下さい。あまり小さなノートでは困ります。普通の大きさ A4 か B4 のノートがよいと思います。作り方は簡単です。次のようにして下さい。

1. ノートは見開きで使います。(教科書の各課の 1 セクションを見開き 1 ページで使います)
2. ノートの左側に教科書の本文(英文)を、文に番号をつけ一行おきに一文ずつ写します。
3. ブロック体か筆記体で、教科書を見ながら 1 課分きれいに写して下さい。
4. セクションが変わったら、次の見開きの左ページの上の方から一行おきに、教科書の本文を一文ずつ写して下さい。
5. 1 課分すべて英語で写し終えたら、右ページにその英文の日本語訳をすべて書き終えて下さい。日本語訳が書けない文はそのままにして、1 課分どんどん書き終えて下さい。
6. 日本語訳がわからない文は、授業中のノートを見直したり、辞書を引いたり、友だちに聞いた

りしてみましょう。それでもわからなければ、学校や開倫塾の先生に遠慮なく質問しましょう。

7. 次に、左ページの英語を 1 課分、大きな声で何回も読む練習をしましょう。スラスラ読めるまでにしましょう。

8. よく読めない語句があったら、辞書を引いて「発音記号」を確かめ、読めるようにしましょう。それでも読めなければ、友だちに聞いたり、先生に質問しましょう。とにかくスラスラ読めるようにしましょう。

9. 左ページがスラスラ読めるようになったら、セクションごとに、はじめは 1 つずつ上の方から文章を覚えていきましょう。そして、1 セクション分すべての文章を覚えてしまいましょう。1 セクション分すべての文章を覚えたら、次は、その課の全部のセクション分の文章を覚えてしまいましょう。

10. 全部のセクション分の文章を一度覚え終わったら、各セクションごとに右ページの日本語を見て英語が口をついて出るまで練習しましょう。

11. (1) 全セクション、右ページの日本語を見て英語が口をついて出るまでになったら、各セクションごとに、日本語を見て英語が書けるかどうか別の紙に書く練習をしてみましょう。書けない単語は気にしないで、そのセクションの英語をすべて書いてみましょう。

(2) 書き終わったら、左ページを見て間違えた語句がなければ赤で 印を、書けなかった語句があったら正しいスペリングを書いて下さい。

(3) 書けなかった語句は、書けるようになるまでその場で練習をしましょう。練習をして書けるようになったら、もう一度そのセクションの日本語のページを見て別の紙に全文英語で書いてみましょう。

12. この「英語教科書丸暗記ノート」は、学校に行くときも、開倫塾に行くときも、自宅で勉強するときも、毎日いつも持ち歩いて下さい。ちょっとでも時間があったら、必ず一番最初のページ、つまり 1 課の日本語を見て英語をスラスラ言えるように練習を繰り返して下さい。

今日、学校で 6 課の第 2 セクションを勉強するとしたら、英語の授業前に、1 課から 6 課の第 1 セクションまで右ページ、つまり日本語のページを見て英語で言う練習をしましょう。(英語がスラスラ出ない人は、あまり無理をしなくていいですから、左ページの英語を 1 課から 6 課の第 2 セクションまで読む練習をしましょうね。)

御参考

(1) 新しいところを勉強する前に、それまで学習したところを 1 ページからすべてやり直すという学習方法は、一度勉強したところを繰り返し、繰り返し学び直すので、これ以上ないと思われるほどの基礎力が身につきます。

(2) たとえば、その教科書の最後の課を 12 課だとしますと、12 課を勉強するときにも、1 課から 11 課まで右ページの日本語を見て英語が口をついて出るようにしたり、それが難しい場合でも、1 課から 11 課まで左ページの英語をひたすら音読し続けければ、1 課から 11 課ま

での内容はいつでも頭の中に記憶の痕跡(こんせき)として残ります。

(3)それまでに学んだ内容がほぼ完全に頭の中に入って新しい12課を学びますと、12課の内容が完全に理解できる可能性は極めて高いと言えます。

(4)新しいものごとを100%完全に学習するには、それまでに学んだことを確実に身につけることがとても役に立つと私は考えます。

皆様も是非お試し下さい。

(5)これは英語に限らず、すべての学習・勉強に当てはまるのではないかと私は確信いたします。

一生涯死ぬまで使える学習の方法ですから開倫塾で学ぶ間に是非身につけてしまってくださいね。

(6)この新しいことを完全に学ぶにはそれまでのところを確実に身につけておくとても役立つという学習方法を、「完全習得理論(Perfect Mastering Theory パーフェクト・マスタリング・セオリ)」と呼びます。

Q：開倫塾の英語のテキストや開倫塾の英語教材、英語のテストはどのようにして100%身につけたらよいのですか。

A：クラスによっては、学校よりもかなり難しい内容を、また、多くの量の英語を、開倫塾の様々なコースで塾生の皆様は学んでいると思います。それらをどのように完全に身につけたらよいか、とても大切なテーマです。

私は、時間の関係上、学校の教科書ほど丁寧に、また、確実ににはできないにしても、できるだけ同じような方法を目指すべきと考えます。たとえば、次のようにやったらどうでしょうか。

1. 授業が終了してもすぐに帰宅しないで、受験の前の日まで10時30分少し前まで開倫塾でその日の勉強を復習してから帰るようにする。

2. まず、その日に開倫塾で学んだ英語をすべて、ゆっくり、丁寧に声を出して読んでみる。問題文や解答の肢(あし)、英文や英単語も含め何回か読み、スラスラ読めるまでにする。読めない語句があったら、辞書を引いて「発音記号」を確かめる(単語と発音記号はノートに書いておく)。「発音記号」が読めなければ、先生に質問する。

御参考 - 辞書を活用できるようにしよう -

(1)「辞書」は「武士の刀」に当たります。

(2)英語学習には欠かせません。

(3)語句の意味や用法、発音記号、関係する語句を確かめたり、文化的背景などを知るために、たとえ小学生、中学生であっても語学学習には欠くことのできないものです。

(4)開倫塾にも英語の授業のあるときには必ず持参して下さい。

(5)高校生や大学生になっても辞書が活用できないようでは、英語の学力は身につけません。

(6)開倫塾の塾生の 80 %以上は四年制の大学に進学なさいます。大半の四年制の大学では英語以外にも第 2 外国語といって中国語、フランス語、スペイン語、ロシア語、ドイツ語、イタリア語、ポルトガル語、ハンゲル語など様々な言語を学ぶことが必修として課せられます。その際、各言語の辞書を活用して大学の語学学習が進められますので、今のうちから英語で辞書の使い方を身につけておきましょう。

(7)もちろん、すべての大学・短大、専門学校では英語が必修科目となっています。高校以上の学校の英語で、辞書なしですむ学校はまずありません。開倫塾では塾生の将来のことも考えて、全塾生に開倫塾で学んでいる間に英語の辞書が使えるようになってもらいたいと希望します。

(8)世界中、その国の母国語や世界の共通語である英語や自分で学んでいる外国語の辞書が使えない高校生は存在しない、特に大学生は存在しないと言えます。お金がなくて辞書が買えない人は別として、お金があるのに辞書を買わない人は非常に珍しいと言えます。がんばりましょう。

3 . 英語のノートに、今日開倫塾で勉強した語句の大切と思われるものを、授業後まとめておくこと。ノートの 1 ページのまん中に縦に 1 本線を引き、その左側に英語の語句を、その右側に日本語の意味をどんどん書く。読むのが難しい語句には、発音記号も書いておく。

・ difficult	むずかしい
・ easy	やさしい

4 . その日に学んだ大切な語句の英語と日本語を書き終えたら、読む練習と書き取り練習を徹底的に行い、日本語を見て英語が正確に書けるまで開倫塾で自習してから帰宅する。

5 . 学年が進めば進むほど 1 回の授業で出てくる新しい語句が多くなりますから、その日のうちにできるだけたくさん覚えておくことが大事。少しずつコツコツ覚えていけば、語句はどんどん増えていきますよ。

Q : 英語の単語や語句は、声を出して発音しながら書き取り練習をするとよいのですか。

A : その通りです。意味や発音を辞書で確かめ(もし先生が近くにいたら意味や発音の仕方を遠慮なくどんどん聞いて)、あとは声を出して発音しながらよく書けるようになるまで練習することです。できれば、その語句の含まれている一つの文章ごと、そっくり発音練習しながら覚えてしまい、全部正確にスラスラ書けるようにすることが一番よい方法です。

Q : 教科書のテープやCD、MDがあるときはどうしたらよいのですか。

A : まず、日本語で文章の意味を正確に理解すること。

次に、英語の文章を聞きながら英語がスラスラ口をついて出てくるようになるまで何十回、何百回でも練習することです。(はじめはポーズをおいてでも OK です。だんだんポーズをおかなくてもついていけるようになります。そうなればしめたものです。)音声教材は、このように徹底的に利用して下さいね。

Q : 英検対策のテキストは、開倫塾の授業後どのように勉強したらよいのですか。

A : (1) その日にやった問題の部分の英語と解答の各選択肢(せんたくし)の英語の日本語の意味、解答集や辞書、授業中のメモなどでまずは確かめましょう。よく意味がわかったら、すべての英文を声を出して読む練習をすること。

(2) よく読めるようになったら、書くのが難しそうな語句は声を出して読みながら書き取り練習をすること。

(3) 英検の教材に出ているすべての英語の文章の日本語の意味を確かめ、意味がわかたら、すべての文章がスラスラ読めるようになるまで音読練習をすること、正確に書けるまで書き取り練習をすること。

(4) 要するに、学校の英語の教科書と同じように、英検のテキストもスミからスミまで丸暗記することです。

(5) 丸暗記ノートを作る時間的な余裕のある人は作って下さいね。

Q : 何でも皆同じなのですね。

A : その通りです。

(1) 日本語の意味をよく確かめ、どのような意味がよく理解することが第一。

(2) よく読めるようにすることが第二。

(3) よく読めるようになったら、読む練習をしながら書き取り練習をすることが第三。

(4) 書き取り練習まですんだら、また元に戻ってひたすら読む練習を繰り返し、全文を丸暗記してしまうこと。

(5) CD を持っている場合には、以上の作業を終えた後、CD の英語と一緒に英語が口をついて出てくる、スラスラ言えるように練習すること。

Q : 最後に一言どうぞ。

A : あまり難しいことはありません。日本語で意味がよくわかった英語をひたすら読み、ひたすら書き、教材のスミからスミまで丸暗記すること。これが、英語上達の秘訣です。

練習、練習、また練習です。

練習は不可能を可能にします。

がんばりましょう。

- 2009 年 9 月 20 日記 -

学力向上の前提とは何か
- 読書により思慮深さを身につけよう -

開倫塾
塾長 林 明夫

1. はじめに

(1)おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。今朝も「開倫塾の時間」をお聴きいただき、ありがとうございます。

(2)春休みに入った方もたくさんいらっしゃると思います。春休みは普段より自由になる時間があります。この CRT 栃木放送の「開倫塾の時間」は、学力はどのようにつけたらよいかという番組ですので、学力を身につけるための 1 つの方法である「読書」についてお話をさせていただきます。春休みは読書をするのもってこいですからね。

2. 読書は学力向上に役立つ

(1)学力の高い方とそうでない方との差はどこから生まれるのでしょうか。 1 つは、自覚を持って勉強している方は学力が高いといえます。 2 つめは、勉強のしかたを身につけている人は学力が高いといえます。どのようにしたら上手い勉強ができるのかということに関心を持って、絶えず勉強のしかたを工夫している方、工夫をしながら自分なりの勉強のしかたを身につけている方は非常に学力が高いようです。 3 つめは、今日のお話の中心でもありますが、読書をたくさんして思慮深さを身につけている人は学力が高いということです。

(2)OECD（経済協力開発機構）という国際機関が行った研究によりますと、お金持ちの方は一般に学力が高いことが多いそうです。そのわけは、お金持ちの方はお父さん、お母さんなど保護者の方から本をたくさん買ってもらえ、その本をたくさん読むからだということです。一方で、お金持ちでなくても本をたくさん読む方は学力が高いということです。お金持ちの国の人々は本をたくさん読むことができるから学力が高い。お金持ちの国でなくても本をたくさん読む国の人たちは学力が高いといわれています。お金持ちの保護者がいても、また、お金持ちの国に生まれても、本を読まなければ高い学力はあまり望めないということです。

(3)私もその通りだと思います。お金持ちであるかそうでないかにかかわらず、とにかく本を読む機会を自分でたくさん作って本を読み込んでいる方は学力が高いと思われます。ですから、この春休みを活用して、たくさん本をじっくり読んでいただきたいと思うのです。

(4)では一体、本はどこで読んだらよいのでしょうか。図書室や図書館がありますね。どの学校にも図書室があります。それから市町村や都道府県には公立の図書館が必ずあります。まずは、そこで本を読まれるとよいと思います。日本は、他の国に比べて学校の図書室や図書館が整備されているか。私は、整備されていないとは思いません。

(5)しかし、フィンランドなど熱心な国に比べると十分でないと思います。例えば、フィンランド

は PISA 調査などで世界で一番学力の高い国であるといわれています。フィンランドには私も何度か行かせていただきましたが、街々に、街角街角に、個人でやっている図書館や公立の図書館がたくさんあります。そして、子どもたちがそこで本を借りて読んでいました。ですから、日本でも志のある人は、自分で図書館を作られたり、公立の図書館を上手に活用したりすることも大事であると思います。

(6)これは皆様にお願ひ、一つの提案ですが、ご自分で、または、御家族、御親族、お仲間の本をたくさん所有し、身近に空いている部屋をお持ちの方は、自分の家に図書館をお作りになり、私立の街角(まちかど)図書館として近所の方々にその蔵書を見せてあげていただきたいと思います。図書館は、個人でいくらでも開設できます。空いている部屋が1つでもあればそこを図書館にし、無理のない範囲で週に1回でも2回でも近所の方々や子どもたちに開放して、所有している本を読ませていただければ、こんなありがたいことはありません。子どもたちだけでなく社会人の学力もつきますし、近所の方々にも喜ばれると思います。フィンランドにはそのような図書館がたくさんあったように記憶しています。

(7)一番よかったのは、タンペレという町にある「ムーミン図書館」でした。図書館の地下にムーミンの博物館があり、関連するいろいろなものが飾ってありました。このような形もすばらしいですね。

(8)本を読むために、まずは図書館を上手に活用しましょう。また、お金に余裕のある方は本屋さんに行って本を買いましょう。このようにして、読書をたくさんして下さい。

(9)では、本はどのように読んだらよいのでしょうか。1~2回読んだだけでは中身がなかなか理解できませんし、身につけません。ですから、できれば6回ぐらい読むのがよいと思います。

(10)何年か前に、私の尊敬する神長善次先生に「本は一体何回読んだらよいでしょうか」と本を読む回数をお聞きしました。神長先生は、オマーンやネパールの大使をなさった方です。その神長先生は、「本は6回ぐらい読むとよい」とおっしゃっていました。それ以来私も、本は1~2回ではなく、できれば6回ぐらい読もうと心がけています。なかなか大変かもしれませんが、これぞと思う本は5~6回ゆっくり読み、よく理解した上でそれを身につけることが大事であると思います。

3. おわりに - 「書き抜き読書ノート」のすすめ

(1)最後に、1つ提案があります。「書き抜き読書ノート」を作ってください、本を読んで気に入った1つの文、まとまった文章、あるいは1ページ、さらに数ページを好きなだけ書き抜いておくことをおすすめします。そして、その「書き抜き読書ノート」に書き抜いたものを折に触れてときどき読んでみる。できれば声に出して何回も何回も、6回ぐらいは読んでみる。すると、それが自分の血となり肉となります。

(2)自分の読んだ本の中で一番気に入ったところというのは、最も心に触れたところなので、それは自然のうちに少しずつ皆様の血となり肉となる、つまり人格の形成にも役に立つと思います。

(3)私も昨年12月末頃から、昔読んだ本あるいは最近読んだ本の中から気に入ったものを選び、「書き抜き読書ノート」に毎日1つぐらいずつ書き抜いています。林明夫(「林」は木を2つ並

べた林、「明夫」は明治時代の明に夫です)で検索すると、私のホームページが出てきます。その中の「書き抜き読書ノート」の欄を見ていただくと、私の書き抜いたものが3か月分ぐらい入っています。

(4)また、開倫塾(「開」は開く、「倫」は倫理社会の倫、「塾」は学習塾の塾)のホームページの中にも私個人のコーナーがあり、そこを検索していただくと同じものを見ることができます。毎日1つぐらいずつ書き抜いていますので、ぜひご覧下さい。

(5)皆様もぜひ「書き抜き読書ノート」を作って、長いものではなく短くてもよいですから、本を読んでいて1つでも2つでも自分の気に入った文や文章を書き抜いていただければ、これもまたすばらしい読書のしかたであると思います。

[コメント]

学力を身につけるには、「本人の自覚」と「教師の力量」が大切なこと論をまたないが、「学び方を学ぶ」能力が身につけていること、「読書による思慮深さ」を身につけていることも大切と考える。読書の秋。是非本格的な読書をお願いしたい。

読書による思慮深さを身につけるチャンス(機会)を身近な人々に提供するために、本をたくさんお持ちの読書家の皆様は、週に1日、いや年に何日かでもいいですから私立図書館(街角図書館)の開設を御提案したい。

- 2009年9月12日林明夫記 -

定期試験で100点満点を取るには

- 教科書を十分「理解」した後に、スミからスミまで正確に覚え切ること -

開倫塾

塾長 林 明夫

1. はじめに

(1)おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。今朝も「開倫塾の時間」をお聴きいただき、ありがとうございます。

先週の「開倫塾の時間」では、5月3日の憲法記念日にちなんで、憲法の「人身の自由」のところを少し紹介させていただきました。憲法の規定をたくさん読んでいただいて、自分の身は自分で守る・自分の権利は自分で守るということをお願いいただければと思います。

(2)今日は、間もなく中間テストがありますので、その対策の仕方についてお話させていただきます。

2. 定期試験で100点満点を取るには - 教科書を十分「理解」した後に、スミからスミまで正確に覚え切ること -

(1)中間テストは、学校での教科書をもとにした学習に応じて出題される試験で、期末テスト同様非常に大事なものです。

中間テストに向けての準備で大事なことの第1は、「中間テストで100点を取る」と決意することです。中間テストと期末テスト、いわゆる学校の定期試験にはそれほど難しい問題は出ませんので、100点を取ろうと思えば全科目で100点を取ることができます。

ただ、試験ですからかなりの準備と努力が必要で、普通にしていたのでは100点は取れません。ですから、最初に「100点を取るんだ」と決意することが一番大事です。

(2)試験日はだいたい決まっていると思います。5月18日の週、25日の週、あるいは6月第1週頃でしょうか。試験の日程がわかったら、2番目には試験範囲表を各科目ごとに作っていただきたいと思います。各担当の先生から、教科書の何ページから何ページまで出る、英語では何課が出るというように示されますので、科目ごとに試験の範囲表を作って、ノートや机の前に張っておくことが大事です。

試験範囲がまだ示されていないときは、テストまでには授業がどのくらい進むかは頭を使えばわかりますので、推定して範囲表を作って下さい。

(3)3番目は、何を・何で勉強するかを決めて下さい。学校の教科書、学校で指定された問題集、学校の授業中に取ったノート、学校から配付された資料集、この四大教材が最も大事です。おそらくこの中からしか定期テストの問題は出題されないからです。99%はここから出ます。

(4)では、それをどのように勉強すればよいかですが、内容をよく「理解」した上でスミからスミ

まですべて暗記することです。このスミからスミまで暗記するにあたって、教科書やノートに何が書いてあるかわからないのでは困ってしまいます。十分「理解」していないときには、教科書やノートをもう一度、辞書や参考書を用いて自分で勉強しましょう。辞書や参考書を使ってもわからないときは、学校の先生に聞いて下さい。もし学習塾に行っているのであれば、その先生に聞きに行くことです。また、家庭教師の先生がいるのであれば、その先生に聞くことです。つまり、自分の力だけでは解けないところは、学校や塾、家庭教師などの先生方にお聞きすることが大事です。

お友達に聞くことも考えられますが、その友達が特別に勉強のできる人であれば別ですが、そうでない場合はあまり有効ではないかもしれません。ですから、試験範囲についてよくわからないところを聞くのであればやはり先生です。

このようにして、まずは、教科書に書いてあること、問題集の問題、ノートに書いてあること、資料集に書いてあることがよくわかるようにする、つまり、「理解」することです。

(5)それができたら、次は、1つの科目ごとにスミからスミまですべて覚えます。覚えるためにはどういうことをしたらよいかと言いますと、3つの方法があります。

1つは、教科書などに書いてあることが口をついてスラスラ言えるようになることです。このために必要なのは「音読練習」、つまり一度勉強してよく理解した教科書や問題集、ノート、資料集などを声を出して読むことです。これを何回も何十回も、何百回も繰り返すと、理解した中身が口をついて出るまでになります。

それから、テストは書けなければ点数になりません。ですから、2つめは、何も見ないで正確に書けるようにすることです。できれば教科書に出ている表や図はすべて正確にかけるとします。こうしておく、表や図の問題が出たときにそっくりかくことができ、点数にすることができます。これに必要なのは「書き取り練習」です。英語はスペリング、国語は漢字の書き取り練習などもする必要があります。すべての科目で書き取り練習をしましょう。

3つめは、なぜそのような答えになるか、一度よく理解でき、解けるようになった問題については、問題を見た瞬間にパッパッと答えが出るまでにすることです。

(ア)例えば 5×3 を計算する問題では、5に3をかけることがどのようなことか「理解」できたら、パッと15と答えられたほうがよいのです。

(イ)日本国憲法の三大原理は何かと問われたら、憲法とは、原理とは、国民主権とは、平和主義とは、基本的人権の尊重とはそれぞれ何かという意味が十分わかった上で、問題を見た瞬間にパッパッと「国民主権」「平和主義」「基本的人権の尊重」と答えが出せるようになることがよいのです。

(ウ)国語も数学も理科も社会も英語も、教科書にある問題、問題集にある問題などはすべて、問題を見た瞬間にパッと答えが出るまでにすることが大事です。

(エ)これを「計算・問題練習」と言います。この「計算・問題練習」と、何も見ないで表や図までかけるようにする「書き取り練習」、何も見ないで口をついてスラスラ言えるようにする「音読練習」の3つをすれば、中間テストや期末テストではどの科目もほとんど100点が取れます。

(3)これに加えて、過去に出題された問題(昨年出た問題・一昨年に出た問題)を公表して下さる学校の先生もいらっしゃると思いますので、その過去問を解いてみることです。回数は、同じ問題を5～6回解くことが大事です。

3. おわりに

(1)繰り返し繰り返し、教科書や問題集、ノート、資料集を辞書や参考書を活用しながら勉強し、すみからすみまで一言一句にいたるまで全部覚えてしまう、これが中間テストで100点を取るコツです。誰でも100点が取れますので、今お話した方法でやってみてください。

(2)100点を取る決意をし、範囲表を作り、すみからすみまで暗記する。これを徹底してよい点数を取り、その科目を大好きになっていただくことを希望いたします。

[コメント]

どのようにすれば、学校の定期試験で100点満点が取れるか。CRT 栃木放送の開倫塾の時間で、22年以上お話をさせて頂いている。開倫塾の月刊誌「開倫塾ニュース」や「塾長通信」でも、毎月のようにこの方法をお伝えしている。この方法を一日も早く CRT 栃木放送をお聴き下さっている視聴者の皆様と、開倫塾の塾生、保護者、地域社会、そして何よりも栃木県内の学校や予備校、学習塾などで教えている先生方、開倫塾で教えている先生方にお伝えしたい、その一念のためである。誰でもできる方法なのでどうか成果を上げて頂きたい。

- 2009年9月15日 林 明夫記 -

CRT 栃木放送『開倫塾の時間』

2009年8月8日(土)放送内容資料

「自分で勉強する」時の効果の上がる方法を考える

開倫塾
塾長 林 明夫

<はじめに>

1. 大切な科目を確実に、うんなるほどよくわかる、腑に落ちる、つまり「理解」し、身につける、つまり「定着」させ、自分のものとして自由自在に活用できる、つまり「応用」力をつけるために、自分自身で本や教科書やテキストにあたるものを勉強しなければならないことが多いと思われま

す。
どのような方法で一人で机に向かい、本を読み、内容を理解し、定着させ、応用力を身につけたらよいのかを本日は考えます。

<勉強の目的を明確にする>

2. 何のために今、この勉強をするのか、その目的を明確にすることです。

授業の予習のためにするのか、復習のためにするのか、定期テストのためにするのか、入学試験や資格試験のためにするのか、その目的によって勉強の仕方は全く変わってきます。

<時間を大切に>

3. この瞬間は今しかない、今この勉強をしないと一生できないと考えて、机に向かうことです。
10 分後、このページはこの世から消滅する、世界から無くなってしまおうと考えて、目の前にあるテキストのそのページに取り組むと勉強にスピードが出ます。

<勉強すべき内容の全体像をつかむ>

4. 一体これからどのような勉強をするのか、その流れをつかむためにテキストの項目だけでもザーと目を通すことです。大きな流れを頭に入れることが大事です。

<とりあえず、うんなるほどと「理解」する>

5. その上で、学ぶべきテキストの内容を一心不乱に集中して一言一句確実に、これはどのようなことを考えながら読むこと。よくわからなければ同じところを 2 回、3 回、4 回、5 回と繰り返し読むこと。

語句の意味がわからなければ辞書を引いて意味を確かめる。その確かめた意味をテキストやノートに書き残しておくこと。

<定義は覚えること>

6. 「～は だ」という定義は確実に覚えること。「ノート」に書き残しておくこと。書きながら覚えること。

7. <同じテキストは6回勉強し直す>

<おわりに>

8. 仕事や社会で活動する上での知識を身につけるときにもこの方法は役に立ちます。
活用して下さいね。

- 2009 年 8 月 1 日 -

CRT 栃木放送 『開倫塾の時間』

2009 年 4 月 4 日(土)放送内容資料

新学年の準備

- 捨てなければ得られない -

開倫塾

塾長 林 明夫

1. はじめに

(1) 目標をもって新しい学年をスタートしよう。

(2) 自己責任、自助努力の考え方で自分自身を律しながら一年間を過ごそう。

「経営」とは、営みを経て目標・目的を達すること
自分自身の行動を「経営」してみよう。

2. 「自覚」をもって一年を過ごそう

- (1) 「今年はこの点に注意して勉強や活動をしよう」ということをはっきり「自覚」しよう。
- (2) 「今年はこの自分の得意分野、強み、よさをもっともっと伸ばそう」ということをはっきり「自覚」しよう。

3. 「学び方」を学ぶことを心掛けよう

- (1) 「どのようにしたら効果の上がる勉強ができるのか」を考え、少しでもよいから実行しよう。
- (2) 一度「理解」したことを確実に身につけるにはどうしたらよいか。身につけたことを活用して、テストでよい点を取るにはどうしたらよいか。社会で役立つにはどうしたらよいか。自分なりに考え、実行してみよう。

4. 春休みにしたらよいこと - 整理・整頓を -

- (1) 自分の部屋の片付け - 何をどこに置くのか -
- (2) 机の上、机の中、本棚の整理 - 何をどこに置くのか -
- (3) かばんの中の位置決め - 何をどこに入れるのか -

* 捨てなければ得られない(石川洋先生)
必要なくなったものは思い切って処分することも大切。

5つのエス「5S」を心掛けよう

- ・整理 (せいり)
- ・整頓 (せいとん)
- ・清掃 (せいそう)
- ・清潔 (せいけつ)
- ・躰 (しつけ)

* 開倫塾は「5S」運動を推進しています。

5. おわりに - 学校から教科書を頂いたら -

- (1) 教科書はどんどん予習をしよう。
- (2) 好きな科目だけでよいから、教科書をどんどん声を出して読んでみよう。
<例>楽器の弾ける人は、音楽の教科書を手にしたらどんどん演奏してみよう。

学力向上を目指して
- 栃木の子どもの基礎・基本を考える -

開倫塾
塾長 林 明夫

1. はじめに

おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。今朝も「開倫塾の時間」をお聴きいただき、ありがとうございます。

各新聞などでもそろそろ取り上げていますので、皆様の中にはすでにお気づきの方もいらっしゃると思いますが、栃木県教育委員会は「栃木の子どもの基礎・基本」を発表しましたので、そのお話をさせていただきます。

2. 学力向上を目指して - 栃木の子どもの基礎・基本を考える -

(1)「栃木の子どもの基礎・基本」は、栃木県内のすべての児童・生徒が身に付けるべき基礎的・基本的な知能・技能とは何かを、栃木県の教育委員会が明示したものです。

(2)これはとてもおもしろい取り組みですね。全国一律にどのようなことを指導すべきかは、学習指導要領に示されています。例えば、生きる力とは何か、基本的な知識・技能の習得、思考能力・判断能力・表現力の育成、学習意欲の向上、学習習慣の確立、豊かな心や豊かな身体の育成のための指導の充実というようなことが学習指導要領には示されており、それらに全国的に取り組んでいます。

(3)これに加えて、このたび栃木県は独自の判断で、教育委員会が「栃木の子どもの基礎・基本」を考え、県民の皆様や学校の先生方に具体的にどのようにしたらよいかを示しました。

これはとても興味深い取り組みですので、ぜひ皆様も栃木県教育委員会のホームページ（「栃木県教育委員会」で検索すると、その中に「栃木の子どもの基礎・基本」というものが出てきます。）を開き、プリントアウトして御覧いただければと思います。私もこの放送のために、ホームページからプリントアウトして見えています。

(4)それにはどのようなことが書かれているのかといいますと、その学年や学習段階において身に付けておかなければ、その後の学習のつまずきに繋がる可能性が非常に高いというものが示されています。それから、その学年や学習段階において必ず身に付けるものが示されています。さらに、身近な地域に関するもののうち、栃木県の子どもの身に付けさせたいことも示されています。つまり、これには、栃木県の子どもの必要基礎・基本というものがすべて書かれていますので、ぜひ御覧になっていただければと思います。

(5)先週の土曜日、4月18日の読売新聞にそれが特集されていました。私にも読売新聞から取材がありましたので、コメントを述べさせていただきました。

読売新聞では、「栃木の子どもの基礎・基本」の内容を、次のようにまとめて報道しています。

(ア)例えば、国語であれば、小学 5 年生は栃木県と自分の住む市町村の名前は漢字で書けたほうがよい。

(イ)社会であれば、小学 4 年生は鬼怒川や男体山、東北新幹線など栃木県のものを理解したほうがよい。

(ウ)小学 6 年生の算数では、分母の異なる分数のたし算、ひき算はマスターしたほうがよい。

(エ)中学 1 年生の英語であれば、アルファベットを大文字と小文字で書くことは最低限できたほうがよい。

(オ)小学 5・6 年生の音楽では、県民の歌や市町村の歌を正しい音程で歌うこともできたほうがよい。

(カ)小学 5・6 年生の体育では、逆上がりはできたほうがよい等々です。

(ア)小学 5 年生であれば「栃木」は漢字で書けたほうがよい、また、小学 5・6 年生であれば県民の歌や市の歌・町の歌は正しい音程で歌えたほうがよいと私も思います。

(イ)ただ、中学 1 年生の英語は最低限アルファベットを大文字・小文字で書けたほうがよいというのは、もう少しレベルを上げていただければと思います。

(6)このような形で、栃木県教育委員会は、小学校・中学校の 9 学年で生活科を除く 9 科目すべてを対象に、合計 2000 項目を超える栃木県版学習指導要領といったものを「栃木の子どもの基礎・基本」として作成しました。学習に不可欠な目標を示したわけですから、非常にありがたいことだと思えます。

(7)私は、この「栃木の子どもの基礎・基本」についての読売新聞の取材に対して、漢字の読み書きや計算の基礎ができないお子さんが実際にはいますので、学年ごとにその学年相応の基礎・基本とは何かを示していただき、学校を挙げてそれに取り組んでいただければ、落ちこぼれを一人でも減らすきっかけになるので非常にありがたいのではないかとこのことを、コメントとして述べさせていただきました。それが、記事となって紹介されました。皆様はどのようにお考えでしょうか。

3. おわりに

(1)学校は 1 クラス 40 名あるいはそれに近い人数ですので、先生方は授業で一人ひとりの児童・生徒に学習指導要領や「栃木の子どもの基礎・基本」の内容をすべて教えることは大変だと思います。ですから、学校を補う意味で、ご家庭でもインターネット等を使って「栃木の子どもの基礎・基本」にはどのようなことが示されているのかを知り、家でも最低限ここまでは頑張ろうとお子さんたちを励ましていただければと思います。最低限の目標が示されたわけですから、学校の先生方だけでは全部はできないと思われるところを、ご家庭で補っていただきたいと思えます。そして、「栃木の子どもの基礎・基本」の達成目標をぜひ身に付けていただければと思います。

(2)今日は、栃木県教育委員会が3月下旬に作成し、4月に公表した栃木県の小学校・中学校の学年ごと科目ごとの達成目標を示した「栃木の子どもの基礎・基本」を紹介させていただきました。

ぜひ皆様にも御覧になっていただければと思います。

[コメント]

国が学習指導要領で、国として教育の内容を明示すべきことは当然であるように、都道府県は都道府県として、市町村は市町村として、各々独自の教育内容を明示すべきことも当然と私は考えます。それらを踏まえ、一つ一つの学校で何をどのように指導すべきかは、学校長が理事会や学校評議会の意向を踏まえながら指針を出し、最終的には一人ひとりの教員がそれらすべてを踏まえながら児童、生徒の教育にあたるのが大切と考えます。その意味で、一人ひとりの教師の力量が大いに求められることとなります。

- 2009年9月17日林明夫記 -

CRT 栃木放送 『開倫塾の時間』

2009年3月7日(土)放送内容資料

社会教育施設を新しい仕事を求める人たちの仕事能力向上のために全面活用を

- 栃木県社会教育会議で考える -

開倫塾

塾長 林 明夫

1. はじめに

おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。今朝も「開倫塾の時間」をお聴きいただき、ありがとうございます。

先月2月12日に、栃木県社会教育委員会議がありました。この会議は、栃木県の社会教育をどのようにしたらよいかについて話し合う会議で、栃木県教育長、次長はじめ栃木県教育委員会の社会教育の分野の担当責任者が全員集まるものです。マスコミや県民にも公開されています。私は、栃木県社会教育委員として会議に参加いたしました。今日は、その会議で私が発表させていただいたことについて少しお話させていただきます。

2. 大不況に即応した社会教育を

(1) 昨年の秋以降、世界同時株安、円高で世界経済、日本経済は非常に大変な状況にあります。日本の通貨である円は円高がすすみ、一時は、1ドル89円にまでなってしまいました。今は、100円にだいぶ近づいてきましたが、以前のように117円ぐらいになるのはまだまだのようです。それどころか、また80円台に戻ってしまう可能性も高いようです。

(2) 栃木県は自動車産業をはじめとする輸出型製造業が産業基盤になっていますので、この世界同時株安と大変な円高が栃木県の経済を直撃しました。アメリカ、ヨーロッパをはじめとする輸出先の消費の極端な冷え込みのために、栃木県内の輸出用工業製品の生産が大幅に縮小され、次には雇用調整が始まりました。最終的には県内消費の冷え込み、県内企業の縮小という形で、マイ

ナスのスパイラル、循環に陥りつつあります。それが県民生活に大きな影響を及ぼしつつあるというのが、私の現状認識です。

(3)この大不況はいつまで続くのかと言いますと、まだ3合目でさらに深まるというのが私の判断です。谷は深く、幅も広い。不況がもっともっと深刻になり、それが全産業にまで及び、回復までには早くて2~3年、あるいは4~5年かかるのではないかと思います。中には15年ぐらいかかるのではないかと言う人もいますが、あと2~3年は回復が困難という予測が大半です。

(4)栃木県、また市町村でも、自治体の存亡をかけて財政面で大幅な支援策を策定しつつあります。ただ、この場合は借金が残るといった問題が起こりますが、借金を残してでも国家破産や自治体破産を避けるということです。

(5)ですから、栃木県のこれからの社会教育を考えるに際しても、現在は100年に一度とも言われる大不況下であるということ認識の上で、栃木県の経済の活性化と県民生活の向上、つまり、この大不況下でも県民の方々が人間の尊厳を保ちながら生き抜くことのできるような社会教育を目指すことが、県民各層から求められるのではないかと私は思います。

(6)従来の栃木県社会教育会議の主要なテーマは、学校教育や家庭教育の側面的支援としての社会教育でした。しかし、私の考えとしては、困難なテーマではありますが、大不況下での社会教育のあるべき姿についても調査・研究して政策の立案をすることも大事ではないかと思ひ、それを提案させていただきました。

(7)では、この大不況下で社会教育を考えるとどのようなことでしょうか。私は、仕事を失った人、また、生活のために仕事に就きたくても就けない人の中には、人間としての尊厳を保ち続けられない人も少なくないと思います。つまり、人間の尊厳が毀損(きそん)されるのは、失業や仕事に就きたくても就けないという場合に多いのではないかと私は考えます。

そこで、大不況の下での社会教育の第1のテーマは、「就労支援のための社会教育」ではないかと思ひます。

(8)知識基盤社会と言われる現代で仕事に就くために求められるのは、高いスキルと高い仕事能力であると思ひます。その中には、集団的規律もスキルとして求められます。仕事はチームですから。また、質の高い職業訓練も必要です。これらを同時並行してはじめて、生活できるだけの収入が得られ、また、自己実現の可能な仕事を得られるのです。

(9)生活できるだけの収入が得られ、なおかつ自己実現の可能な仕事を、きちんとした仕事という意味の英語でDecent Work(ディーセント・ワーク)と言ひます。ILO(国際労働機関)ではディーセント・ワークの推進を一所懸命やっていますが、私もそれに賛成です。

(10)仕事は一人ではできませんので、チームワークで仕事ができる集団的規律と、質の高い職業訓練が大事であると思ひます。これを、栃木県の社会教育の中で、社会教育施設を使って行えばよいのではないかと思ひます。

(11)今まで栃木県の経済を支え、全国7位か8位という非常に高い栃木県民の平均所得の維持の原動力になったのが、輸出主導型の製造業です。今は、それに従事されていた方々が失業したり、

また、今までと同じ日数だけ仕事に就けないという大変な状況が発生しています。そこで、この方々のために、栃木県内の社会教育施設は総力をあげて、その施設を大不況が終わるまで就労支援のために活用することが大事ではないかと思い、それを提案させていただきました。

(12) 皆様の近くにも、図書館や公民館、体育館、自然体験の家などたくさんの社会教育施設があると思います。これらの社会教育施設は子どもたちの学校教育や家庭教育の支援をするためにあるという考えもあり、それに活用することはもちろん大事です。しかし今は、非常な困難を伴っている失業中の方や就労を目指す方々の支援を、学費無料つまり公的負担で、また、そこでの教育成果を就労に際しての Job Card (ジョブ・カード) に単位として認定できるようなきちんとしたカリキュラムを組み、先生の質も上げ、マネジメントもしっかりした上で、社会教育として行ったらよいのではないかと私は考えます。そして、これをニート・フリーターの方々、学校は卒業したけれども学力が十分に身につけていない方々も含めて行ったらよいのではないかと思います、提案させていただきました。

3. おわりに

今日は、2月12日に行われた栃木県社会教育会議で、私が発表させていただいた内容を皆様に説明させていただきました。

皆様はどのようにお考えでしょうか。

[コメント]

(1) 栃木県社会教育会議での3月7日の放送内容に若干の語句の修正を加えたもの。

(2) 2009年9月11日午前5時49分の円相場は、1ドル91円76銭。春以降瞬間的には1ドル100円近くになった円相場だが、ギリギリ値上げをして、92円を割り込んでしまった。輸出主導型の製造業としては悪夢とも思われる90円割れも間近という様相だ。

(3) 円相場が上昇すれば、輸出は困難になるため、輸出主導型の製造業は雇用調整を行わざるを得ず、その地域の失業率、有効求人倍率は悪化する。その対策のためには、産業構造を地域全体で大幅に転換する取り組みが求められる。働く人々には、別な産業で雇用されるだけの仕事能力の向上が求められること明確だ。県教育委員会は児童・生徒・学生だけではなく、新しい仕事を求める社会人のために県内の社会教育施設をフル活用するよう体制を整備すべきというのが私の主張し続けている意見。しかし、今までの社会教育の枠組みで考える方が多く、なかなか納得してもらえない。

- 2009年9月11日 林明夫記 -

先生の条件とは何かを考える

- 栃木県公立学校教員採用試験面接試験で考える -

開倫塾

塾長 林 明夫

1. はじめに

- (1) 8月20～22日まで、宇都宮市の東北自動車道路宇都宮インター近くの栃木県総合教育センターで、栃木県の公立学校の教員採用試験の面接試験、論文試験等が行われた。
- (2) 私は、8月22日(土)に午後1時から4時30分まで集団面接試験の面接官を担当した。
- (3) そこで、先生の条件とは何かを考えたい。

2. 先生の条件とは何か

(1) 前提1 教育の質とは何か

カリキュラムの質

先生の質

マネジメントの質

* 自らの力で質のよいカリキュラムをつくり上げることができること、および学校やクラス、学習者の集団をマネジメントできることも先生の質に含まれる。

(2) 前提2 教育成果を決定する要因

(学習者)本人の自覚

先生の力量

* (学習者)本人の自覚を促すことができることも先生の力量に含まれる。

(3) 声が大きいこと

声があまりにも小さいと、学習者である児童・生徒・学生にまで先生のことばが伝わらないからです。

(4) 体力があること

教育は、たとえ教科教育であっても強い体力が求められるからです。

(5) 子ども好きであること(児童・生徒・学生が大好きであること)、教えることが大好きであること

子どもが嫌いであったり、教えることが苦手である人は、先生には全く向きません。

「この子をどうにかしてあげようという熱い気持ち、情熱が教育」と考えます。

(6) 研究熱心であること

教科(学科)の授業でも、教科以外の教育活動(つまり、学校行事やクラスでの活動、部活動、クラブ活動、生徒会活動、掃除など教科以外の学校での活動のすべて)であっても、すべて教育と考え、その質を高めるために研究に研究を重ね、万全の準備をすることが求められます。毎日すべての授業について、どのようにその日の授業を組み立てるか、「授業の設計」をする。予め詳細な授業プランを毎日つくり上げ、簡単な形でもよいから文章化しておくこと。

(ア)これを「教案(教える案)」「レッスン・プラン」と言う。

レッスン・プランを毎授業書き続けること。

(イ)レッスン・プランに基づき授業を展開すること。

授業中の児童・生徒・学生の発言や質問は、できるだけ詳細にレッスン・プランにメモをしておくこと。

(ウ)授業後は、その日の授業をふりかえる(リフレクション)こと。ふりかえた内容はレッスン・プランに赤で書き残し、授業改善に用いること。

このようにしてつくられた「レッスン・プラン」は、積み重なると数年後に「先生としての成長の記録」になる。

「レッスン・プランは先生としての成長の記録」

3. おわりに - よい先生になるために一生勉強し続けること -

(1)先生としての基本的な知識・情報・技術だけは毎日学び続けること。アップデートし続けること。

(2)自分のことよりは、児童・生徒・学生の教育を考えること(優先すること)。あらゆることの中に児童・生徒・学生をおくべき。

大衆化した大学においては、自分は大学の先生であるからといって研究ばかりしてはならない。

目の前にいる大学生をどうにかしなければならぬと考えて、自分のもつ半分以上のエネルギーを学生の教育に注がなければならない。

自分の研究のみに関心があり学生の教育に関心がない人は大学で教えないほうがよい。

- 2009年8月23日記 -

小学校での英語教育を考える
- 栃木県の県勢発揚 11 か条とは -

開倫塾
塾長 林 明夫

1. 小学校での英語教育を考える

おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。今朝も「開倫塾の時間」をお聴きいただき、ありがとうございます。

2年後からは、小学校でも英語が必修になります。4月12日の栃木県内で30万部以上発売されている下野新聞によりますと、栃木県では、8割の小学校が前倒しで、今年から英語教育を実施することです。1年間に約35時限(1時限45分)の英語の授業を計画しているそうです。

県内の30市町村の教育委員会によりますと、今年は325校が指導要領を前倒しする形で、年間35時間以上の授業を計画しています。栃木県内には全部で402の小学校がありますから、その81%に相当します。これは非常によいことではないかと私は思います。

ただ、問題点がいくつかあります。1つめは、1週間に1回(1時限)45分の授業でよいのかということです。私は、語学であれば、できれば1週間に3回、もっと言えば毎日のように授業があったほうがよいと思います。学校では年間に35週授業を行いますので、1週間に3回ぐらい英語の授業をやっていただくと、最低でも1年間に100時限となり、英語の力がついてくると思われます。ちなみに、学校の授業は年間に35週分と言われています。35時限が1つの単位になります。これも、皆さんにぜひ覚えておいていただきたいと思います。

このように小学校英語教育の問題点の1つめは、英語の授業時間があまりにも少なすぎるということです。

2つめは、誰が教えるのかという問題です。教える先生が十分に揃っていませんので、小学校の場合は、クラス担任の先生が英語を教える可能性が高くなります。小学校のクラス担任の先生は英語が得意かと言いますと、言いにくいことですが得意な先生ばかりではありません。ですから、クラス担任の先生は自分で英語の勉強を十分にしてから教えていただきたいと思います。

きつい言い方をしますと、ピアノの弾けない人がいくら熱心に教えても、教わる生徒は弾けるようにはなりません。また、水泳のよくできないコーチがいくら水泳を教えても、教わる生徒は上手に泳げるようにはなりません。同様に、英語に堪能でない人、英語によるコミュニケーション能力のない人がいくら教えても、子どもたちは英語が上手にできるようにはならないのです。

では、教える先生はどのくらいできればよいのでしょうか。英語によるコミュニケーション能力が身についている人、例えば読む力とすれば英語の新聞がスラスラ読めるというのが最低のラインですので、教える先生は英字新聞を家で毎日購読して、それがスラスラ読めるようになるまで勉強していただきたいと思います。

ただ、全国的には2年後から実施する小学校での英語教育を、栃木県では県内の8割にあたる小学校がその準備を新年度から始めるということで、栃木県は非常に頑張っている方であると考えます。小学校の先生方は大変ですが、英語教育に邁進していただきたいと思います。

2. 栃木県の県勢発揚11か条

それから、同日 4 月 12 日の下野新聞を読んでいましたら、以前にオマーンやネパールで大使をされた神長善次先生が、「日曜論壇」にすばらしい文章を書いていらっしゃいました。栃木県の県勢を高めるためには 11 の大事なことがあるという「県勢発揚11か条を提案」と題した文章です。これを少し紹介させていただきます。

神長先生は、私の尊敬するすばらしい方で、先週も 2 時間ほど個人的にお話をお伺いする機会がありました。

神長先生は、栃木県と世界、東京・関西に人生の三分の一ずつを住まわれ、そこで過ごしていらっしゃいます。そして、それぞれの土地から栃木県を見つめて、県勢の輝く発揚を願ってこられました。その思いを 11 か条にまとめたものが、前述の文章です。

(1)一番大事なことは、自分自身でまずは県の姿を知ることです。栃木県は、那須を扇の要に、東南に八溝山系、西南に日光足尾山地が走り、扇の腹の南の境を渡良瀬川と水戸線北部が区切っています。関東平野や首都圏の北の奥座敷です。また、縄文以来の歴史があり、中世には小山や足利、宇都宮、那須といった諸藩が割拠して、あるいは連衡して、外側の白河や陸奥、上野（こうずけ）、武蔵などの諸藩と戦いつつこの地を守ってきたというすばらしい歴史があります。これらのことをまず知ったほうがよいということです。

(2)次は、豊かな自然を知り、活かすことが大事であるということです。栃木県は豊かな水と緑に恵まれています。里山や深山（奥深い山）がありますので、それらをよく知り活かすことが大事です。例えば、みかん栽培の北限、リンゴ栽培の南限は栃木県です。また、サケの大量遡上の南限でもあります。それから、地震や台風、雨、雪の被害が非常に少ないめずらしい土地です。このような特色のある栃木県ですから、農業や教育、観光、別荘、転地（移り住む場所）として、最後は老後生活を送る場所として適しています。この豊かな自然のすばらしさを知り尽くして活かすことが大事であるというのが、2 つめです。

(3)3 つめは、産業立地が優れているので、この好条件を活かしたほうがよいということです。豊かな水・澄んだ空気は、精密機械や先端技術にとっては非常に好い条件です。また、首都圏を背景にして幹線道路が走り、港や飛行場へのアクセスもよいですから、産業立地として優れています。神長先生は、この好条件を活かしたほうがよいともおっしゃっています。

そのほかにも、(4)優れた人材を輩出する伝統を誇りとしたほうがよいこと、(5)日本一の気構えを持つことがたくさんあること、世界一を目指すにはどうしたらよいかということ、(6)当世随一の教育を行うことが大事であること、(7)研究機関（シンクタンク）を作ったほうがよいこと、(8)安全と福祉の確認・増進を図ること、(9)自治と(10)和の魂の精神を頑張る持ち、最終的には(11)地方力を取り戻すことが大事であるということなどについて、すばらしい文章を書いていらっしゃいます。

皆様もぜひ栃木県のよさを考え、そのよさを活かして 21 世紀をリードし日本の鏡となるべく、栃木県の県勢を高めてもらいたいと神長先生はおっしゃっています。私もその通りだと思います。皆様はどのようにお考えでしょうか。

[コメント]

2 つの重いテーマを 4 月 18 日の同じ番組の中で取り上げてしまった。ものごとを突きつめて考えていくと、栃木県のあるべき姿については、神長先生の 11 か条に行き着く。小学校英語は、担い手である先生の資質・力量が最大のテーマとなる。わかっていながらなぜできないのか、歯がゆ

人身の自由を保障するために
- 日本国憲法を何回も読み直そう -

開倫塾
塾長 林 明夫

1. はじめに

おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。今朝も「開倫塾の時間」をお聴きいただき、ありがとうございます。

ゴールデンウィークの真ただ中である明日5月3日は、日本国憲法が制定された憲法記念日です。この「開倫塾の時間」では、およそ2年に1度この時期に「憲法」のお話をさせていただいています。

私は、慶應義塾大学時代と大学を卒業後も司法研究室で研究生として7年間も法律を勉強し、また、学習塾を始めてからも憲法をずっと学んできました。参議院の憲法調査会で日本国憲法の下での平和と安全保障について、公述人として意見を述べさせて^{いただ}いたこともあります。日本国の主権者である日本国民として、憲法の勉強は非常に大事ではないかと思っています。そこで今日は、明日の憲法記念日に先駆けて、日本国憲法について皆様とご一緒に少し勉強させていただければと思います。

2. 人身の自由を保障するために - 日本国憲法を何回も読み直そう -

(1) 憲法は、中学校3年生の公民や、高校3年生の政治経済で学んだ後、最近はあまり読んだことがない方が多いのではないのでしょうか。日本国憲法に日本国の基本法としていろいろなことが明記されています。とりわけ、3つの大事な原則があります。1つは、「国民主権」です。国の運命を決めるのは、主権者である国民であるという考えです。2つめは、「平和主義」です。日本は平和の国に徹しようということで、自衛隊は存在するがそれは国を守るものであって攻めていくものではないとしています。3つめは、どこの国の憲法にも明記されていますが、「基本的人権の尊重」です。

(2) 基本的人権の尊重には、表現の自由や法の下での平等などいろいろありますが、その中の最も古典的あるいは基本的といえる「人身の自由」についてお話をします。

専制主義が支配していた時代には、恣意的な刑罰権の行使によって身体の自由・人身の自由が不当に踏みにじられ、不法な逮捕や監禁、拷問などが行われました。しかし、身体の自由・人身の自由の保障がなければ、ほかのいかなる自由権も存在しません。そこで近代憲法は、過去の歴史を踏まえて、人身の自由を保障するさまざまな規定を設けるのが通例になっています。

日本国憲法も、一番代表的な第18条から始まって第31条からあとに、ほかの国の憲法には見られないくらい細かく人身の自由に関する規定を置いています。これは非常に珍しいことなので、少し説明させていただきます。

憲法第 18 条では、「何人も、いかなる奴隷的拘束も受けない。又、犯罪に因る処罰の場合を除いては、その意に反する苦役に服させられない」と定めています。人間の尊厳に反する非人道的な自由の拘束の廃絶を、ここで謳っているわけです。これは非常に大事なことで、監獄部屋・本人の意思に反した労役などを強いてはいけないということです。

第 31 条のあとには、適正手続きという細かな規定がありますので、そのさわりを紹介します。日本国憲法のように憲法で詳細に人身の自由を保障するために適正手続きを規定するのは非常に珍しいとされています。

(ア)第 31 条には「何人も、法律の定める手続きによらなければ、その生命若しくは自由を奪われ、又はその他の刑罰を科せられない」とあります。法律の定める手続きによらなければ、その生命もしくは自由を奪われ、またはその他の刑罰を加えられないということです。「何人も」とありますから、外国人も含まれます。

(イ)第 33 条は「逮捕の要件」で、「何人も、現行犯として逮捕される場合を除いては、権限を有する司法官憲が発し、且つ理由となつてある犯罪を明示する令状によらなければ、逮捕されない」となっています。司法官憲とは裁判官のことです。現行犯として逮捕される場合を除いては、裁判官が発し、かつ理由となっている、これはこのような犯罪だよと明示する令状によらなければ逮捕されることはないということです。

現行犯は目の前で犯罪を行っているわけですから令状なしにその場で逮捕されても仕様がありませんが、そのほかの場合は逮捕には令状が必要だということです。

(ウ)第 34 条には「何人も、理由を直ちに告げられ、且つ、直ちに弁護人に依頼する権利を与へられなければ、抑留又は拘禁されない」とあります。これは、弁護士を依頼する権利があるということです。

(エ)そして、「又、何人も、正当な理由がなければ、拘禁されず、要求があれば、その理由は、直ちに本人及びその弁護人の出席する公開の法廷で示されなければならない」と続きます。なぜ逮捕されたか・拘禁されたかの理由を、公開の法廷で示すことが必要だということです。このようなことも、よく覚えておいたほうがよいと思います。

(オ)第35条はもう少し細かなことで、住居等に侵入する場合には、正当な理由に基づいて発せられ、かつ搜索する場所及び押収するものを明示する令状によらなければ、搜索または押収してはいけないとあります。

このようなことはないでしょうが、もし皆様のところに警察の方が来られて家の中に入れて下さいと言うときには、「捜査令状はありますか」とお聞きする権利があるということです。このことも覚えておくとういことです。

(カ)このほかにも、「裁判所で公平な裁判を受ける権利のあること」、

(キ)「刑事被告人はすべての証人に対して審問する機会を十分に与えられ、また、公費で自分のために強制的な手続きによって証人を求める権利がある」こと、

(ク)「刑事被告人はいかなる場合にも資格を有する弁護人を依頼することができる」こと、

(ケ)たとえ殺人犯であっても資格を有する弁護人を依頼することができ、被告人自らがこれを依頼することができないときは国でこれを附することなどが明記されています。詳細は刑事訴訟法に書かれていますが、誰にでも弁護士を依頼する権利があるのです。

(コ)さらに、「何人も自分に不利益な供述を強要されない」こと、「強制・拷問もしくは脅迫による自白または不当に長く抑留もしくは拘禁されたあとの自白は証拠とすることができない」ことも日本国憲法にははっきりと書かれています。

3. おわりに

このように憲法は非常に大切な法律ですので、皆様もよく読んでいただき、自分の身は自分で守ることを考えていただきたいと思います。

[コメント]

足利事件のような冤罪を二度と再びおこさないためにも、憲法的人身の自由の規定をたえず読み返し、国民も、また、公務員も自分のものとするのが大事かと思う。

- 2009年9月16日林明夫記 -

CRT 栃木放送 『開倫塾の時間』

2009年3月21日(土)放送内容資料

持続可能な資本主義とは何か - アスペン研修所ローマで考える -

開倫塾
塾長 林 明夫

1. はじめに

(1)おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。今朝も「開倫塾の時間」をお聴きいただき、ありがとうございます。

(2)先週の「開倫塾の時間」では、経済視察団の一員として2月11日にサムソン研究所を訪れたお話をさせていただきました。サムソンは、韓国で大活躍をしている会社です。そのサムソンでは、どのようにグローバルな人材を育成しているかについて、先週お話をさせていただいたのですが、説明し忘れたことがありますので加えさせていただきます。

(3)サムソンという会社の公用語は英語です。英語ですべて議論しています。ですから、これから先は国際化を目指す企業ではどこでも英語が大事になるのではないかと、もっと言えば、企業として国際化を目指すのであれば、もっと英語を活用すべきである。公用語に加えるべきではないかと思えます。韓国のサムソンの経営手法から学ぶことは大きいと考えます。

2. 持続可能な資本主義とは何か - アスペン研修所ローマで考える -

(1)さて、2月20日と21日にローマに行ってきました。そこで、そのローマでアスペン、フォー G8 という国際会議に出てきましたので、今日はそのお話を少しさせていただきます。

今年 7 月には、イタリアで G8 サミットが開かれます。去年の今頃には北海道の洞爺湖で G8 サミットが開かれ、日本でも大いに盛り上がったのを皆さんも覚えていらっしゃると思います。今年はそれがイタリアで行われるのです。

- (2) イタリアのローマにあるアスペン研究所が、イタリア政府や外務省の支援を受けながら、G8 サミットの中身について話をするという会議がありました。私はたまたまそのような会議があることを OECD のホームページで知って参加の申込をしました。すると、飛行機代や宿泊費をもつので参加してほしいという招待状が届きましたので、またとないすばらしい機会、光栄なことであると思い行かせていただきました。
- (3) テーマは、「持続可能な資本主義とは何か」「持続可能な金融とは何か」「持続可能な消費とは何か」でした。開催場所は、ローマに本部のある国連の機関の 1 つである World Food Program (ワールド・フード・プログラム、世界食糧計画) でした。
- (4) 参加者は全部で 100 名ぐらいで、60 名ぐらいはイタリアの方で、40 名ぐらいは外国から参加した方々でした。有名な方としては、国連の元事務総長のコフィー・アナン氏、IMF の代表者の方、OECD の事務局長の方などもいらっしゃいました。日本からの参加者は私一人でした。非常に勉強になりましたので、その中身を少し紹介させていただきます。
- (5) 今は大変な経済状況下にあります。といった資本主義はこれからどこに向かうのかというのが最大のテーマでした。資本主義はこのままでよいのか。アメリカに端を発した世界経済危機であるが、あまりにも自分勝手にいろいろな商品を作り過ぎてしまった、特に金融商品をつくり過ぎてしまったので、それが一部のみに利益の極大化をもたらす形となり、一般的な銀行や金融機関に多大な迷惑をかけ、最終的にはアイスランドやラトビアなどの国家破産に結びついてしまった。このようなことがないようにするためにはどうしたらよいか。このような内容の会議でした。
- (6) 私の個人的な考えですが、金融商品はもしかしたらネズミ講のようなものだったのかもしれませんがね。それを金融工学の研究の成果と称して格付機関が非常に高く評価しました。小泉内閣の竹中大臣の活躍でいかがわしい金融取引が全面禁止になり、経営の健全化が本格化していたため日本ではそれほど多くの影響を受けた金融機関がなかったのですが、格付機関の高い評価を信じて世界中の年金基金や証券会社、銀行などがサブプライムに汚染された金融商品を買ってしまい、にっちもさっちもいなくなって今日のような経済状況に陥ってしまったのだと思います。
- (7) 資本主義の下では、経済活動は自由ですが、それでもある程度の制約は必要だと思います。やってよいことといけないこと、道徳的にやってよいことといけないことはあります。資本主義は資本主義で、自由主義は自由主義ですばらしいとは思いますが、やはりルールの中でプレイする、枠組みを決めてその中でプレイするのが望ましいのではないかと考えます。
- (8) 金融工学は、米国の超一流の理工系大学院出身の方が作った商品ということです。理工系の方が金融商品を作ることは悪いことではありませんが、あまりにもお金儲けのための技術に走り常軌を逸してしまった。その影響が出てしまったのが、今の経済危機です。ですから、ある程度の枠組みを世界中で決めたほうがよいと思います。それを考えないと、さらに大変な状況になると思います。

(9)会議は、イタリア語と英語で行われました。イタリアというと、中川大臣の記者会見での不明瞭な受け答えが問題になり、お酒を飲み過ぎたからだ、風邪をひいて薬を飲んだからだなどと騒がれましたが、私も行って驚いたことは1時間半ぐらいある会議の昼休みにみんながワインを飲んでいました。酔っ払ってしまうと大変なので私は飲みませんでした。同時通訳の方たちまでワインを軽く飲んでいただけには本当に驚いてしまいました。心配になり大丈夫かどうか聞いたところ、「私は、日本の大臣ほどお酒に弱くないので大丈夫」という答えが、隣に座っていたイタリア語と英語の同時通訳の方から返ってきました。

(10)イタリアでは食事のときに頻繁にお酒が出されます。ですから、ちょっと飲み過ぎると大変な状況になってしまうということがわかりましたので、これはよい勉強をしたなと思いました。

3. おわりに

(1)2月20日と21日にはアスペン研究所で開かれた「アスペン・フォー・G8」というG8サミットに向けての国際会議に出席させていただきましたので、今日はその報告をさせていただきました。

(2)ここで強く思ったことは、会議などはすべて英語で行われますので、英語の力だけは普段からつけておかないと、国際会議などに出ても大変なことになるということです。ぜひ、皆様にも大いに英語を勉強していただければと思います。

[コメント]

CRT2009年3月21日の放送速記録に語句の修正を加えた。イタリアでのサミットも無事終了し、世界は新しい経済秩序の構築に向けて動き始めた。不況はますます深く、また、広くなりつつある。その一方で、地球温暖化や超高齢化、グローバル化、地域紛争、核兵器の拡大など世界が抱える問題も多く数知れない。

大不況の下で、様々な問題をどのように解決して持続可能な社会を構築していったらよいか。一人ひとりが十分に考えたい。

- 2009年9月11日 林明夫記 -

現代的課題にどう取り組むべきか
- シンクタンクに期待すること -

開倫塾
塾長 林 明夫

おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。今朝も「開倫塾の時間」をお聴きいただき、ありがとうございます。

栃木県は今、桜の花がまっ盛りですばらしい景色です。

さて、読売新聞の栃木版に「とちぎ寸言」というコラム欄があります。私は、新聞社から依頼を受け、2～3か月に1度そこに文章を書かせていただいています。4月8日の水曜日の「とちぎ寸言」に私の文章が載りましたので、今日はその内容について紹介させていただきます。

文章の題は、「新しいシンクタンクに期待する」です。本年4月中頃に、足利銀行が新しいシンクタンクを設立すると聞きましたので、そのシンクタンクに期待することを書かせていただきました。

栃木県の成長に今一番必要なものの一つは何かと言いますと、私の考えでは、他のほとんどの都道府県にあって栃木県にないもの、シンクタンクです。

シンクタンクとは、地域の経済、地域の発展、企業の成長を戦略的に政策として練り上げる研究機関のことを言います。その新しいシンクタンクを、足利銀行が4月中に設立することになりましたことは、地域経済の発展に非常に意義のあることだと考えます。

かつて栃木県には、とちぎ総合研究機構という地域に根ざした全国有数のシンクタンクがありました。このとちぎ総合研究機構は、略して「とち総研」と呼ばれ、経済の活性化と県民生活の向上のために独自のプロジェクトを組み、また、栃木県や各市町村、栃木県経済同友会などの経済団体、企業などから委託を受けて、どのようにすれば栃木県全体や各市町村、各企業の経済が成長し、発展するのか、その基礎的な研究を積み重ねました。

ですから、とちぎ総合研究機構（とち総研）は、栃木県の産業基盤を政策面で下支えした功績が極めて大きいと思います。

とち総研はしばらくお休みしていましたので、4月に足利銀行が新しくシンクタンクを設立することになりましたことは、栃木県の地域の経済の発展にとっても意味のあることだと私は思います。

ところで、栃木県の経済をリードしていたのは、特に北米やヨーロッパ向けに輸出をしていた輸出主導型の製造業です。現在、世界的な不況と超円高で、この製造業が危機的な状況に陥っています。そこで、今こそ産業界、栃木県・各市町村、栃木県内に18ある大学・短大・専門学校などの高等教育機関の3者とマスコミ、そして何よりも栃木県内で働いたり生活したりしているすべての人々が、新しい足利銀行のシンクタンクの活動に協力したほうがよいのではないかと私は考えます。

栃木県の潜在能力・可能性は限りなく大きいと私は思います。ところが、その限りなく大きい栃木県の潜在能力・可能性はなかなか顕在化しない、形となって見えてこないというもどかしさ・はがゆさは非常に大きいものがあります。そのもどかしさ・はがゆさを感じている人は、私だけではないと思います。

ですから、この足利銀行の新しいシンクタンクは、企業の人材育成のための研修、経営の支援、地域観光の振興の支援などを、まずは活動としておやりになることだと思います。そして、それらの活動を軌道に乗せることが大事であると思います。それに加えて、不況の今だからこそ、将来を見据え

た本格的な調査・研究や政策の提言も是非、期待したいと思います。

では、今すぐにも取り上げるべき問題はないのかと言いますと、決してそのようなことはありません。山積みしています。例えば、道州制の問題です。県をやめて、道や州を導入するというのが道州制です。

また、地方財政の改革もあります。県には 1 兆円近くの負債があります。各市町村にも、予算額と同じくらいか、それ以上の負債額のところがあります。ですから、県や市町など地方の行財政はこのままでよいのか、改革しなくてよいのかということも考えなければなりません。

それから、自治体レベルの規制改革をすると経済が発展しますので、規制改革をどのように進めたらよいのかも行政の課題です。

さらに、サービス産業の生産性の向上も必要です。サービス産業は、製造業に比べて生産性が劣る、3分の 2 だとよく言われています。ですから、どのようにサービス産業の生産性を向上させて、製造業から出た失業の方々を吸収するかという大テーマもあります。

農業の株式会社の参入、大変な状況にある自動車産業をどのように進化・深化させたらよいか、外国企業の日本への誘致、教育制度の改革、外国の方々に日本でどのように働いていただくか・帰していただくか等、いろいろな問題があります。

このように、産業界には取り組んでいただきたい課題がたくさんあります。その中で何よりも取り組んでいただきたいのは、これから膨大な景気対策の予算が出てきますので、その使い途が果たしてこれでよいのかということを考えていただくことです。

最後に、「田舎の 3 年、京の 3 日」という言葉を紹介させていただきます。田舎で 3 年過ごすのは、京の都で 3 日過ごすのと同じであるという意味です。1 つのところでどんなに懸命に物事に取り組んでも、マンネリに陥ったり、乗り越えられない壁が現れることがあります。そのようなときには、自らの力でリズムを取り戻す勇気やチャレンジ精神が必要になります。ですから、自分にとっての京の都を探して、そこに掛り、知的な刺激を受けることが大事であると思います。

足利銀行が設立する新しいシンクタンクが、栃木県あるいは栃木県で働いたり生活したりする人にとっての京の都の役割を果たすことを期待したい。このような内容の文章を、4 月 8 日（水）の読売新聞の栃木版に「とちぎ寸言」として書かせていただきました。

皆様はどのようにお考えでしょうか。

[コメント]

解決すべき課題が大きければ大きいほど、シンクタンクのその果たす歴史的役割は大きい。遠慮は要らないと私は考える。来るところまで来てしまったのだから、誰に遠慮することなく本音の議論を冷静に展開すること。このことこそが地域シンクタンクに期待される。

- 2009 年 9 月 13 日林明夫記 -



下野新聞社は10月から、足利事件の大型検証企画「らせんの真実 冤罪・足利事件」の連載を始めます。またくらすα面、地域版でも新企画をスタートさせます。ご期待ください。

10月から新企画

必勝受験塾 林明夫塾長の中3生指南

来春高校受験に臨む中学3年生に、勉強の方法や心構えなどをアドバイスします。執筆は学習塾「開倫塾」の林明夫塾長が担当。「高校入試基礎力養成講座」とともにご活用ください。11日から第2、第4日曜日付。